

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200495		
法人名	ラブネットサービス株式会社		
事業所名	グループホームとんがりぼうし		
所在地	倉敷市玉島柏島688-1		
自己評価作成日	平成31年2月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200495-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成31年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔で寄り添い、笑って暮らそう」をモットーに、「その人らしく笑顔で」生活できるよう日々のケアを行なっています。今年度も食事を重点的に、毎日の食事～季節の行事までの充実にも努めました。又、健康維持の為、近くの訪問看護ステーションと医療連携の体制を整えました。これにより、週1回の訪問、体調変調時の相談等が出来るようになり、より細やかな健康チェックが可能になりました。最も力をいれたのは、社会参加で、ホームからの外出を2回程増し、なじみのボランティアグループへの季節毎の訪問依頼、夏には玉島交流センターで作品展を行いました。展示したのは、普段作成している季節の作品や壁紙を中心に個人で作っている編物、とんがり新聞等で、多くの方に見て頂くことができました。これからも、笑顔で生活出来るよう支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの庭にある見事な桜の木の下で、毎年練り広げられる花見の宴が脳裏に焼き付いている「とんがりぼうし」に訪問すると、昨年と変わらない素敵な笑顔で利用者の方達が私達を迎えてくれた。最も力を入れたという社会参加も着実に成果が表れ、地域の人達の訪問・交流・作品展での展示等々、『この地に「グループホームとんがりぼうし」あり!』と広く認識され、知名度も上がってきている。「小さいグループホームなのでいろんな事を自由にさせてもらえ」と、管理者が語るように、職員達の発案や企画が実践しやすい自由な空気がこのホームにはある。会社側の信頼を得る事で、職員のモチベーションも高まり、個々のレベルアップへと相乗効果も生まれている。利用者も軽度の人が多く活動的で本来のグループホームの姿を呈している。今回の訪問では地域交流でどんな新しい展開を見せてくれるのか楽しみである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々、職員1人ひとりが心がけ、理念をもとにしたものになっている。	理念は職員がよく目につく場所に掲示して、折りに触れ確認して原点に立ち返るようにしている。軽度の人を中心としたホームに方針を変えてから、グループホームらしい活気のある日常が展開されており、利用者と職員が共に笑って仲良く暮らしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、地域のお祭りの際は立ち寄って頂き、楽しい時間を共有している。ホームの新聞を公民館等に貼らせてもらい地域の方にも見てもらっている。また、地域の掃除等行事にも参加している。	地域との交流は職員の努力もあり、年々交流の幅も広がりをみせ、地域のボランティア訪問、小学校のベルマーク集めや子供会の廃品回収に協力等、地域と良い関係、交流が出来ている。路地の曲がり角に「GHとんがりぼうし」の看板を設置する事を検討中と聞いた。	地域の人にホームの存在を認識してもらう為にも、ホーム側からのアプローチは勿論の事、分かりにくかった進入経路も看板を設置する事で、より一層の意識付けが出来ると思う。知名度アップに役立て、交流を拡げたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校あてにベルマーク集めに協力。地域のボランティアグループに定期的な参加を依頼し、なじみの関係を築いている。また、作品展を地域の交流センターにて開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム周辺の状況がわかるようになり、地域行事への参加、非常災害時の協力体制に役立てている。又、参加している他施設の取り組み等情報交換でき、当施設のサービス向上に結びついている。	2ヶ月毎に多彩なメンバー構成で、運営推進会議が開催されており、参加者と活発な意見交換をしている。今年度は西日本豪雨災害を受けて、災害対策について行政や地域の人、家族等とよく話し合い、市の担当者からは災害マニュアルは具体的に作成した方がよいという意見をいただいた。	運営推進会議には、たまに家族の参加もあるが、参加者が限られているので、不参加の家族に運営状況等を知ってもらう方法として、議事録を送付してはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険事業者連絡会に加入し、研修に積極的に参加している。	運営推進会議には市の担当者の参加も得られ、生活保護受給者の経済面の関係で毎月、担当者とは話す機会もある。また、加算関係の書類や訪問看護との医療連携の時には市に相談や問い合わせをして助言・指導をもらっており、日頃から良い協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の安全面に配慮し、センサーマット、玄関センサーを使用する等自然な暮らしを支えるようにしている。身体拘束防止委員会を定期的に開催している。	現在身体拘束が必要な人はいないが、外に出たいという欲求の強い人がいるので、玄関の上部に鍵を付けている。防犯・安全対策としてホーム周囲に外灯を増やしたり、人感センサー等を設置している。職員は身体拘束や言葉の抑止についても勉強し、よく認識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」の研修には参加するよう努めている。研修参加後にはスタッフ会議で報告し情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人制度を利用している入居者様があり、後見人に協力してもらい勉強会を開催した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用料金や起こりうるリスク、施設の方針、重度化した際の料金変更等十分説明を行い、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時に近況報告し、積極的に意見交換を行なっている。急を要する際は、電話にて速やかに連絡している。家族会では職員が個別に話し合う等、安心して話し合える雰囲気をつくっている。	年2回6月・11月に家族会を開催し、その時話し合われた内容等を不参加の家族にも送付している。夏祭りには家族の参加が7名あり、祭りの法被も新調して揃えたと聞いた。また、請求書と一緒に「お便りやとんがり新聞等を送付して日々の生活の様子をお知らせしている。」	とんがり新聞の4コマ漫画も楽しいが、各家族へ出しているお便りは、毎回コピーして残しておいて欲しい。出来るならば状況報告だけでなく本人との会話やエピソードも添えると尚良い。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の気付き、工夫できること等を職員が気兼ねなく提案できる雰囲気づくりをしている。申し送りノートの活用やスタッフ会議にて意見交換、急な対応についても周知できるようにしている。昨年よりスタッフ会議に専務も参加している。	法人の専務もスタッフ会議に参加して職員の意見や提案を吸い上げてくれる体制が出来ており、例として、サーキュレーターの取り付け、車を購入する際に意見を聞く、居室のトイレの部品を改修する等、様々な改善が実現していると聞いた。職員間のコミュニケーションもよく取れている。	「小さなGHなのでいろんな事を自由にさせてもらえる」と、このホームの長所を職員から聞いた。職員の意見や提案が確実に上層部に伝わり実践出来る体制は素晴らしいと思うので、これからもその柔軟性を大切にして下さい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	専務がスタッフ会議に参加し実情を把握、相談にも応じている。年に1回は全職員が外部の勉強会に参加できるよう努めている。又、面接行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で開催される研修に職員が参加できるよう努めている。 ホーム内の研修も外部から講師を招いたり、外部研修の報告等行なっている。資格取得も積極的に勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護保険事業者連絡会に加入し、研修に積極的に参加している。「玉島の多職種連携の場」にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で家族と本人に会い、生活歴、生活状況等を把握し、要望、疑問点等話し合う時間をつくっている。入所後も相談しやすい環境をつくる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩みや不安に寄り添い、施設としてどのような対応ができるか話し合っておく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームで出来る事、出来ない事を説明している。希望者にはホームの見学やお試しも行っている。相談の内容により、他のサービス利用を提案することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人が出来ること、好きなこと、得意なことを探し、一緒に作業したり、任せている。洗濯たたみ、ぬりえ、壁絵づくり等。本人の自信や充実感に繋がるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告し情報共有している。また、家族会、運営推進会議への参加、入居者様の検査等での受診付き添いや行事等への参加等可能な方にはお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、知人との面会、外出支援。電話、手紙等の連絡を取り持ったり、つながりが途切れないよう努めている。	利用者同士が義理の姉妹、居室に位牌を置いている利用者のところへ年2回お盆と彼岸には菩提寺の住職が棚経に訪問等、家族や友人、後見人等の面会はもとより、今まで馴染んできた大切な関係も継続されている。今日も面会に来た奥さんと本人との遠慮のない賑やかな会話がよく聞こえてきた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に相談、話を聞く時間をつくったり、利用者間関係が円滑になるようレクレーションや作業を通じ働きかけをしている。反対に相性の合わない際は席替え等の工夫もする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた場合でも、生活環境、支援の内容、注意点等情報提供し連携をとる。また、家族の悩みや不安に寄り添い、相談にのることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から相談できる時間を設け、本人の希望から困りごと、テレビや家族の話等なんでも気軽に話が出来る機会をつくるよう努めている。	「お墓に行ってきます。お彼岸だから気になって」と言ってお下駄箱を開けているAさんの記録があるように、自分の気持ちや要望を話せる人も多く、職員は一人ひとりの思いをしっかり受け止めるようにしている。ここで唯一人の男性のBさんには他入居者と上手くコミュニケーションがとれない時には居室でゆっくり過ごすよう声かける等の支援もしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活環境は本人、家族から聞き取りしている。可能なら自宅訪問する。利用していたサービスについては前事業所、病院等に情報提供依頼する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活リズムを把握、尊重し、無理なく、その人らしく過ごせるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には日常の関わりのなかで、家族には面会時や電話連絡時等に要望や意見を聞いている。医師には往診時に注意事項等確認している。職員にも申し送りノートや会議で意見を出し合い現状に即した計画を立てている。	各個人の基本台帳(フェイスシート)は詳細で、精神面、ADL、IADL等のアセスメントも兼ねていて、記述も分かりやすく、職員間で共有しやすい。本人の意向もよく把握しており、ニーズ(課題)、目標、支援内容が連動している。また、プランに対する日々のチェックリストを作成し、毎月評価して次のプランにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、本人の表情や言葉を重視し、生活の様子を記録し、申し送りノートを活用する等、情報を共有、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に応じ、買い物、ドライブ、散歩、必要な支援は柔軟に個別対応している。一人ひとりの満足度を高められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入、運営推進会議開催しており、近所で行なわれる行事の情報が得られる。また非常災害時に協力体制を築けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望するかかりつけ医となっている。内科以外の受診や通院はできるだけ家族に協力して頂いている。	9名ともホームの協力医が主治医であり、往診もある。他科受診等の時には、職員が受診ノートに記録して共有している。日々の健康維持の為、H30.11月から訪問看護ステーションとの医療連携を始め、週1回の訪問や細やかな相談にも乗ってもらえるので安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者の状態観察を常に心がけ、協力医療機関に報告、相談し適切に、受診、看護を受けることができる。協力医療機関に24時間対応の外来看護師直通電話があり、いつでも相談できるシステムになっている。また、H30.11～近くの訪問看護ステーションと医療連携体制を整えた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはフェースシート、ADL等情報提供し、入院中は職員が見舞い、家族とも相談しながら退院支援している。また、退院前には病院職員と情報交換しスムーズにホームの生活に戻るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から重度化した場合のことや、終末期のことを話題にし、当ホームで出来ること、出来ないことを説明している。重度化した際には本人・家族の意向を随時確認しながら担当医等と連携し支援している。	以前重度の人がいた時には個人の事情で看取りをしたケースもあったが、現在は軽度の人を中心としているので近年ホームでの看取りの実施例はない。人員体制の関係もあり、出来る限りの支援はするが「ホームで最期」は難しい現状である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が普通救命講習Ⅰの講習を受講。定期的に応急処置や初期対応の訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。運営推進会議、家族会でも話し合い、協力体制を築いている。又、中学校区の防災を考える会に参加し情報収集行っている。	玄関を入ると目に入るのが、AEDの装置と「救命スタッフ常駐認定施設」の額。地域の人から要望のあったAEDの設置も行い、職員には救命救急の資格保持者もいて、毎年研修したいと考えている。スプリンクラー設置、防災カーテンになっており、運動通報装置の工事も完了した。災害に備えた備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活のなかで築いてきた習慣やこだわりを尊重し、対応している。また、各人が選択し易い問いかけを心がけている。	玉島交流センターで作品や日々の暮らしを紹介した新聞等を展示する時には、「個人情報の使用に係る承諾について」を家族に送付して写真掲載等の承諾を得ている。各居室にトイレが設置してあるので、排泄や更衣時の羞恥心やプライバシーへの配慮は出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人や家族等から聞き取った生活履歴を参考に普段の会話等から複数の選択枝を提案し自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床にはじまり就寝までその方の暮らしのペースを大切に、個人のリズムに合わせた支援ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の更衣の際の洋服選び、整髪、化粧品等習慣にあった支援をしている。定期的な訪問美容師も利用できるが、馴染みの美容院へ行く方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物の際、好みの食材やおやつを買ったり、誕生日にはその方の希望のメニューにしたり、行事食は皆で話し合いながら決めている。	毎日の食事を大切にしており、ほぼ職員の手作りと聞いている。契約先から有機野菜を定期的に配達してもらっており、誕生日にはリクエスト食。年2回は庭でBBQ。料理上手な職員がいるので利用者も毎度の食事が楽しみになっているとの事。楽しくおしゃべりしながら皆さん完食だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量、毎食の食事量を一覧表を使いチェックしている。検査簿を使い食材やメニューが偏らないように工夫している。普段の会話や残食より、各人の好みを把握するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じ、週に1度訪問歯科を利用し、口腔状態の把握、口腔ケアの方法等を指導受けている。日に3回、自立の方は声かけ、出来ない方は出来ない部分を介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し定期的な声かけにより、トイレで排泄できるよう支援している。立位が不可の利用者は安楽の為、ベッド上でパット交換している。	排泄が自立で布パンツで過ごす人もいるが、大半はリハビリパンツにパットという組み合わせが多い。パットの大きさや種類もその人の排泄の状態を見ながら個々に合わせた物を使用している。排泄リズムを把握して適宜、声かけ誘導して自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルト、牛乳を使った飲み物を提供している。頑固な便秘の方は朝一にコップ一杯の水を飲むよう声をかけ、食事は野菜を多く摂れるよう努めている。毎日のビデオ体操とスクワット等の下肢訓練を行なっている。必要に応じ医師とも相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調や希望にあわせて入浴して頂いている。拒否の強い時には清拭や足浴、翌日に変更したりしている。	週2回を基本とし、自分で入る人、職員と一対一で入り見守りが必要な人、シャワー浴対応の人等、その人の状態によって様々な入浴方法を取っている。安全対策として浴室内に手すりを増設し、バスボードを導入しが、重度化が進みシャワー浴が難しくなった場合は特浴のある他施設への移動も視野に置いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の体調や生活リズムに合わせて休息してもらっている。午睡したり、日中活動も個人の体調を配慮している。夜間眠れない人は日中できるだけレクや作業に誘い、夜ぐっすり眠れるよう支援する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人の薬ケースに保管し、いつでも確認出来るようにしている。変更があった場合は業務日誌、生活記録表に記載し、飲み方、いつから変更になったのか等わかるようにしている。薬剤師による副作用等の研修を行った。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者1人ひとりの好きな事、得意な事、笑顔になれる事、を一緒に探し、達成感、喜びを感じて頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的な買い物、特別な外出行事、月1の郵便局、ドライブ等1人ひとりの希望を把握し添えるよう支援している。地域の行事等は家族も巻き込んで一緒に参加したこともある。	年4～5回は全員で外出する計画を立て、デイの車を借りる等数台でドライブをし、非日常を楽しんでいる。初詣・花見・コスモス見学・買い物等行き先も様々。外食も楽しみの一つであり、アリオ倉敷ではウインドウショッピングもしたと聞いた。家族の協力もあり、個別外出する人には出来る限りの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、お小遣い程度のお金を自分で持って、買い物の際自分で支払われる方もある。他の方は立替金で買い物し、本人が安心、満足できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	届け物のお礼や、声が聞きたくなった時、いつでも電話して頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホール、に季節の飾りや花、植物等を飾り、居心地のよい空間を入居者と一緒に作っている。日にちがわかるよう手作りの日めくりカレンダーを設置している。又、季節にあった壁画(塗絵・ちぎり絵・クラフト等)一緒に作成し飾っている。	午前中のリビングは塗り絵をする人、自分の日課の仕事に没頭している人、おしゃべりを楽しむ人達等とそれぞれ思い思いに過ごしており明るく和やかな雰囲気漂う。午後はお昼寝タイムなのか自室でゆっくり過ごす人が多い。展示されている写真や作品から日頃の活動の様子がよく伝わってきた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれお気に入り、落ち着ける場所があり、自由に過ごせるようにしている。ソファや廊下の椅子で日向ぼっこしたり、入居者がくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持参した家具を設置している方、仏壇、位牌を置く方もあり、本人が居心地良く過ごせるよう、工夫している。また、伝い歩きがし易いよう動線を考え安全面にも配慮し設置している。	自分の好みで生活しやすいようにレイアウトしている人もいれば、家族の愛情をいっぱい感じられる居室もあり、その人らしい個性が光る環境設定になっている。自室を案内してくれたCさんは、室内装飾のこだわりや窓から見える素晴らしい景色を自慢げに話してくれた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には名札、花飾り(個別)をつけ、自分の部屋がわかる工夫をしている。廊下には手すり、玄関には靴が履き易いよう椅子を設置している。必要に応じ、居室内トイレに案内札を付けている。		